

令和5年度（第6回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和6年2月21日（水） 14時00分～16時00分
 - 2 開催場所 加古川図書館 セミナールーム
 - 3 出席委員 大山委員、日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、黒田委員、久保田委員、兼子委員、徳田委員、山尾委員、高橋委員（11名）
 - 4 欠席委員 川上委員、菅原委員、小倉委員
 - 5 出席職員 小南教育長、桐山教育指導部長、杉本教育指導部次長、福島教育指導部参事、松尾教育指導部参事、井上教育指導部参事、衣笠教育指導部参事、梅野社会教育課長、田村中央図書館長、生田事務担当係長、又賀資料担当係長、小浦指定管理施設担当、樽本加古川図書館長、釜須加古川図書館チーフ
社会教育課（畑副課長、川向地域家庭教育係長、浮田主査）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

（1）読書活動の推進について

（中央図書館より説明及び現地見学）

委員

改めて素晴らしい施設だと感じた。自分の中高生時代にあれば、学校と家以外の別の居場所を見つけることができたのではないかと感じている。今の子どもたちの居場所のひとつにこの図書館がなっていると感じた。

委員

いい施設になっていると実感した。時代にあった新しい設備があり、学生にとって非常にいい環境になっていると思う。

また、前回見学した中央図書館はいずれ改築や建て替えが行われることになると思うが、加古川図書館の設備や取り組みはその際に非常に参考になると感じた。

図書館の利用率についてだが、令和元年度と令和4年度の実績を比較すると、旧館から移転を行った加古川図書館を除いては、令和4年度の数値のほうが低くなっている。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、単純な比較とはいかないが、数値の減少についてどのように解釈を行えばよいか。また、図書館としては数値をどのように評価しているのか教えてほしい。

中央図書館長

加古川図書館は旧館と比較すると、館内の学習・ワークスペースの席数が多いことや駅から近いという立地の面もあり、通勤通学の方も多く利用していることから、移転してからの利用者数が増えている。

中央図書館

令和4年度の利用状況については、令和元年のレベルには戻ってないが、これは加古川市に限った話ではなく、全国的に多くの図書館で利用者数が伸び悩んでいる状況である。

これは現場の解釈だが、図書館のサービスが本の貸し出しや、資料の提供だけではなく、各所と連携した資料以外の情報の提供や、生活に係る情報の提供など、資料以外の様々な情報を提供する機会が増加していると感じている。それに伴い、全国的に図書館の評価を行う際、本の貸出冊数だけで判断することが難しくなっており、今後も様々な取り組みを行っていくべきだと考えている。

ただ、利用者に対する本の貸し出しや資料の提供は図書館のサービスの基本であるため、引き続き幅広い資料の収集や購入に努めていきたいと考えている。

委員

利用者への駐車券の発行枚数と、利用者全体における割合を教えてください。

中央図書館

令和4年度は提携する4つの駐車場の駐車券を約25,000枚発行している。これは加古川図書館利用者全体の約20%にあたる。

委員

この図書館の立地はいいが、もう少し車で来館される方が多い印象がある。

委員

この図書館を車で利用する際、図書館貸し出しカードを提示すれば、駐車料金の割引サービスを受けることができるが、1回の利用につきどの程度の割引を受けることができるのか。

中央図書館

1時間分のサービス券を渡しているが、図書館に滞在される方には十分な時間とはいえないため、今後の課題としたい。

委員

非常に立派な施設であり、様々な方面から新たな利用者の発掘のために、利便性を重視した取り組みが行われているのがよくわかった。

紹介のあった中で、flier（ビジネス書等の要約 web サービス）というものが良いと感じた。また、蔵書のICタグについても利便性を感じたが、どちらも加古川図書館でしか利用できないものである。コストの面もあり難しい問題であると思うが、今の図書館が単に本の貸し出しだけではなく、市民への情報提供、あるいは求められる知識に応えるという意味で、flierのような1つのきっかけを提供するというのは非常によいと思うので、将来的に市内の他の図書館への導入を、少しずつでも検討いただけたらありがたい。

中央図書館長

加古川図書館の蔵書のICタグの導入は、旧館からの移転の際の休館期間に蔵書の整理が出来たことが大きい。他の図書館も含め、4館全体で同様の動きができるように検討していきたい。

委員

この施設に加古川図書館が移転する際、一番に気になったことが隣地に書店があることだった。また、別の商業施設では、書店と喫茶店が隣接しており、喫茶店で書籍を読むことが可能となっており、様々な形態で本と親しむ機会が出来ているように感じる。子どもや若い世代を含め、本に興味を持ち、もっと読書してもらいたい人々に対して、本に親しむための様々な形態やサービスがあるのは非常にありがたいことだと思う。この図書館にもこれからは他にないような、新たなサービスを展開していただけたらありがたい。

書店と隣接していることで様々な工夫がされていたが、書店と図書館とが隣接することによる相乗効果や影響はあったのか。

加古川図書館長

現場の体感ではあるが、書店からはとにかく人が来てくれないと本が売れない、という声を聞くことが多い。その点では図書館に若い世代が来館することもあり、書店側も図書館が移転してから、若い世代をターゲットにした参考書や漫画の棚の位置を目につきやすい前方に移動するなどの工夫を行っている。

図書館もイベントを行い、人に来てもらう取り組みは行っているため、その辺りでの相乗効果はあると考えている。

委員

乳幼児を連れた保護者が来館された際に、児童コーナーを利用すると思うが、床にあまりクッション性がなく、絵本を選んだり、座って子どもに読み聞かせたりするのは適さないと感じた。児童コーナーを小さな子どもと保護者の専属スペースにしてしまった方が、そういった方々が利用しやすいのではないかと感じた。

中央図書館

「お話の部屋」という部屋があり、そこでは靴を脱いでゆったりと座り、保護者と乳幼児とがくつろげるスペースとなっている。部屋の位置が分かりづらいため、うまく PR を行い、利用者がゆっくりリラックスして過ごせるようにしていきたい。

委員

学習スペースの稼働率ほどの程度か。また、中学生と高校生であればどちらの利用が多いのか。

中央図書館

学習室予約の際に、図書館カードの情報とは連携してないため、中学生と高校生のどちらの利用が多いのかはわからない。利用者の統計の取り方については、今後システムと連携していくことを課題としている。ただ、感覚的には高校生の方が多いと感じている。

学習・ワークスペースは 102 席あり、稼働率は令和 4 年度実績で 75.6%となっている。

委員

今の時代は子どもたちが紙の本に触れる機会が少ないと思う。加古川図書館では様々なイベントが開催されているので、その中で幼児から小学校低学年までの子どもが本に触れる機会を増や

してほしい。

委員

図書館へのアクセスの関係上、足が不自由な方やあまり家から出ることができない高齢者はこの図書館を利用しづらいように感じる。そういった方々にも利用を広げていくような取り組みがあれば教えてほしい。

中央図書館

課題点でも挙がっていた通り、提携駐車場から図書館へのアクセスが少し遠く、例えば車椅子の利用者は図書館を利用しづらいと思う。

高齢者へのサービスについては、大きな文字で読みやすい大活字本を資料として導入している。

中央図書館長

大活字本については拡充を進めている。図書の貸し出しについては、例えば、公民館等の施設を通じて本の貸し出しを行うサービスなどが出来れば、現在よりも利用しやすい環境が整うのではないと思う。教育委員会内であらためて検討していきたいと思う。

委員

この施設に国際交流センターや子育てプラザなどの市の施設が集まってきていると感じているので、教育委員会だけではなく関係部署とも連携しながら、様々な施設やサービスが利用できたらいいと感じた。

(2) 令和6年度社会教育委員活動計画(案)について

(社会教育課より説明)

委員

公民館は過去と比較して非常に様変わりしていると感じており、今の時代の公民館の位置づけがよく分からなくなっている。

昔は公民館には青少年も高齢者もいるイメージがあったが、10年ほど前は高齢者の活動の割合が多くを占めていたように感じていた。そして現在ではそこからまた変化しているように感じている。新しい施設であれば工夫もされており、人が集まっているが、そうではない施設で活動されている方からは、公民館に行きにくい部分もあるし、実際行っても寂しい、もっと公民館を活性化出来ないのか、というような声を聞いている。そのため、機会があれば今の公民館のあり方について議論ができればありがたいと思う。

(報告事項)

(1) 両荘みらい学園における学校図書館の一般開放について

○ 閉会 16時00分

徳田副委員長あいさつ

以上